瑞　雲

明日を拓く　直方鉄工青年会　第65号　平成8年1月20日

平成7年度スローガン　『青年会を情報交差点とし独創から協創へ飛躍しよう』

ノーブレス.オブリージ
(Noblesse oblige)

第31代会長　吉　田　祐　司

新春のお喜びを申し上げます。この瑞雲が発行される頃には新会長も決まり、組織や新規事業の取り組みに大忙しだと思います。早いもので私の任期も残す所僅かになりました。

'95.1.11日の役員会に於いて会長承認を得た直後より、従来にないユニークな発想で「初めに目的ありきの目的貫徹型から、自ら目的を創造する目的創造型」で事業を行って頂こうと、各委員長さんにお願い致しました。

まず新会長の試金石とも言える4月の通常総会ですが、従来の式次のあり方に疑問をもっていた私は新会長のあいさつ、理事長あいさつのあとすぐ乾杯と一挙にあいさつをカットしました。さすがの総務委員長も打ち合わせの時心配の色はかくせない様子でした。しかしながらメンバーによるスムーズな進行のおかげで無事終了し、私の最初の難関は突破出来ました。続いて豪華商品のボーリング大会、直方の歴史を学んだ雑学セミナー、小竹で行われたまつりくらじ、クルージングを期待していた海水浴でしたが、危険を伴うという事で海の中道での家族ピクニック、今年度最も期待された会活性化委員会の手作りいかだによる川下り。(この事業は本当にクリエイティブな目的創造型だと思います。) 海水浴に続いて今度は台風のおかげで中止を余儀無くされたアウトドアーセミナー。情報推進委員会によるコンピューターカレッジでのパソコンセミナー。歴史に残る地獄の研修旅行。ユニークな大学教授を東京からつれてきた国際交流委員会による“アジア経済と国際ボランティア”の講演など、どの事業を振り返ってみても、各委員長並びに委員の熱心な活躍により全ての事業が盛会に終える事が出来ました。

又、対外的には鉄工組合による情報促進委員会、１００年委員会、NIT委員会、工業人クラブなどに参加させて頂き、私自身の自己啓発に大いに役立った事は言うまでもなく、これからの業界の発展の為にさらなる協力をしていく所存です。

役員人事については、無難な会員を抜擢する事も出来たでしょうが、若手会員の早期育成の必要性を感じ多くの若手会員に役員になって頂きました。4月頃の新米役員が12月頃には驚く程成長したことについては大変うれしく思います。来年、再来年と会長のもとにきっとすばらしい活躍が期待できる事でしょう。

一年間を振り返ってみて、私自身反省することしきりですが、今までとは少し違った青年会になったと感じて頂ければ幸いです。そして今後青年会に期待する事ですが常に問題意識を持ち、大いに議論を戦わし、激論の後は気持ちの良い酒を飲み、良き友になってほしいと思います。さらに若手会員にノーブレス．オブリーチという言葉を送りたいと思います。地位の高い人にはそれに相応し義務があるという意味で西欧社会では、エリートたる者の心構えとなっている言葉です。直方若手経済人としての自覚をもち、視野を広め、エリートとしての道を歩んで頂きたいと思います。

最後に会員の皆様、並びに関係各位の皆様の暖かい御支援と御指導を賜り大変感謝申し上げる次第です。特に直方市長、鉄工組合理事長、OBの方には特別な御配慮頂き重ねて厚くお礼申し上げます。本当に一年間ありがとうございました。

当社のパソコン利用法

特別会員
（細田金属工業㈱専務）　細　田　　章

現在当社においては、大きく分けて生産管理システムと配合計算システムをパソコンで常時利用しています。

この二つのプログラムの作成に当たっては、先ず何をやりたいかを明確にする為に簡易ソフトでモデルを作り、コンピューター・テンダに提示し自社専用ソフトの開発を行いました。その為満足するソフトの完成には二年から三年かかっております。

生産管理システムは、熟練者以外の社員でも正確な見積積算資料が作成出来る事と、工程進捗状況の把握により納期管理と受注能力予想に利用する事が目的で作成しています。

配合計算システムは、あらゆる合金鋳物を一番安いコストでＪＩＳ規格に適合する配合を自動計算にて算出し、製品の標準化を目的として作っています。

つまり、当社のパソコンの利用法としてはパソコンを只単なる省力化としてだけではなく、限られた人材を何倍にして使うかという戦略マシンとしての活用を考え、又、経営管理の道具として使い、軌道修正や意志決定に役立てております。

ここ数年間でのパソコンの高性能化は目を見張るものがあります。例えば三年前と同じ価格で高速化、記憶量の能力が十倍ものパソコンが入手できる時代になっています。

青年会会員の方々の中には仕事が終わった後時間をさき、パソコンに取り組まれている方もおられる様ですが、皆さんの頭の柔らかいうちにその想像力と創造力でパソコンが作り出す「情報」を加工して「明日の経営戦略」を考えてみられては如何でしょうか。

「これからの鉄工青年会」について

副会長　篠　﨑　光　繁

「これからの鉄工青年会」について何か書いてくれと、広報委員会より依頼がっあった。依頼の趣旨が今一つつかめないが、多分「これからの鉄工青年会は、どうあるべきか」という事であろう。

正直云って私にはよくわからないが、昭和56年に入会して以来、私が経験し知り得た事を述べる事が、結果的にその答えになりそうである。15年間で私が得た事は、いつの時代でも組織にいてもそうであったように、素晴らしい人間関係を築く事が大切であるということである。

果たして、15年前もし渡辺先輩の鉄工青年会入会への誘いがなければ、自分はどうなっていたであろうか。振り返ってみると、私は常に鉄工青年会に対して不満を感じていた。多分、青年会が与えてくれる何かを期待していたからであろう。しかしながらここにきてようやく私は、諸先輩から与えられた限りないご縁のおかげで、今の自分がある事に気付く事が出来た。だから今は、「鉄工青年会はどうあるか」ではなく、「青年会において自分はどうあるべきか」というふうに素直に考える事が出来る。ここまで書いてみたことが、「これからの鉄工青年会のあり方」の答えになりえたかどうかはわからないが、これからの残り５年間も鉄工青年会の限りないご縁の中で生かされる日々を、大切に過ごしたいと考えている。

これからの青年会に思うこと

副会長　**飯　野　泰　造**

新年明けましておめでとうございます。

この冬は、久し振りに、冬らしい寒い日が多く、スキー場の積雪情報を見ながら、今シーズンの計画をあれこれ考えているうちに、懐かしく思い出されるのが、なんといっても、今から5年前の高倉会長の時に行った金沢2泊3日のスキー旅行です。私は、入会2年目で厚生副委員長のポストを与えられ、当時の大田委員長をはじめ、ベテラン揃いの委員会メンバーに支えられ、ワイワイガヤガヤ言いながら楽しんで計画を立てたのを覚えています。委員会は、出席率もよく、常に5・6人は集まっていました。そこでは、あらかじめ、委員長と立てた大まかな計画を報告した後は、飲みながら、各自の意見を聞き、委員長が取りまとめて、役割分担を決めていきました。

また、3年前の坂田会長の時には、経営委員長として、経営セミナーを企画し、「経営者のための経理常識」というテーマで、6回連続同じ講師の方にお話をしていただきました。

スキー旅行のときには、ぜひ事業を実現したいという会長の希望と、久し振りにスキーがしたくてしょうがないという委員長や私に皆さんがのって下さったものでした。そして経営セミナーのときには、毎日現場で働くばかりで、数字のことにはうとい私が、勉強してみたいことをテーマに選んで企画していったのでした。（もちろん、反省点もいくつかあるのですが。）

青年会の皆さんは会社の第一線で働いている人ばかりですから、誰も時間的な余裕はありません・それでも大切な時間を削いて、おもしろく事業が行えるのは、責任感ばかりでなく、自分のやりたい事を、青年会の力を借りて実現するというスタンスを持てるかどうかにかかっています。勿論、中心になって事業を企画する委員長と委員会、会長との合意も当然のことながら必要です。各自、自分の求めるものを討議するなかから、会社とは違った組織の見方、会員相互のつながり、情報交換の場が生まれるのではないでしょうか。

自分にとっての、魅力的な青年会をつくりあげていこうとする気持ちが、会を活性化し発展させていく原動力になると私は確信しています。

国際交流委員長として

国際交流委員長　**細　田　　宏**

新年明けましておめでとうございます。

本年度は「青年会を情報交差点とし独創から協創へ飛躍しよう」というスローガンのもとで始まり今までにない特別委員会の国際交流委員長に任命されました。

お役を受けたものの何をすればよいのかわからず会長に幾度となく尋ねると「心に秘めていることがある、もう少し待ってくれ」とか「まだいい」とか言われしだいに自分の役職を忘れかけた頃、会長からの電話の一言で委員会活動が始まりました。

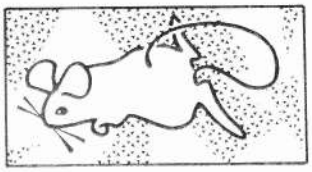
その一言とは「ベトナムに行こうぇ」でした。

ベトナムの子供達に奨学制度をつくり、恵まれない子供達に学問の機会を与えよという趣旨から青年会員による基金の設立を目指しております。

その準備段階としてベトナムに詳しい明治学院大学の江橋正彦教授にお会いするため会長と二人東京へ行きました。その席で直方へお越し頂く事をお願いして、12月1日に「ベトナム経済社会と国際協力」というテーマでセミナーを開催する事ができました。多数の会員の方に出席して頂き、又活発な質疑応答があり無事に終了できたのも県中小企業団体中央会及び日本外交協会の協力があったからで深く感謝致しております。

今後は、ベトナムの子供達の為に青年会員ができるボランティア活動としての趣旨をご理解頂きたく、いろんな諸問題を会員の皆様にお世話ご協力して頂く事があると思います。

その時は、どうぞよろしくお願い申し上げます。



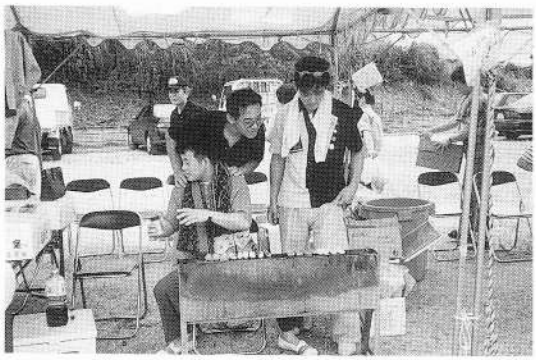
Congratulations

ご卒業おめでとうございます

ご卒業にあたり、皆様からコメントを頂きました。

村井　昇

昭和五十四年、名声高き鉄工青年会へ入会いたしました。時の内藤会長のスローガンの一つであった「会員の拡大」ということで大量十三名の新人の一人となったわけです。早いものでというか、やっとと言うか三月の卒業が間近に迫ってまいりました。在籍中におきましては、鉄工会においてほんのかけ出しの未熟者でありましたが、先輩方の御指導のおかげで多くの事を勉強させていただきました。それまでは仕事上と学生時代の友達など付合いも行動範囲も狭いものでしたが、

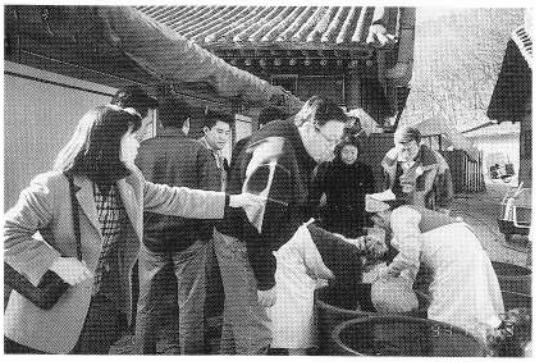


平成７年 まつりくらじにて

入会以来毎月の例会や行事に参加していくうちに、大変よい経験をさせていただき有意義な十七年間を過ごすことができました。第一、第三水曜日の役員会、例会よりもその後の居酒屋や香港（会費3000円也）での二次会の方が楽しみで、その日の残業は、一切ナシでいそいそ出かけていき、人生論、仕事に対する考え方や悩み、子育て論、酒の飲み方など語り合い、また豪快に話される先輩方に圧倒されながら、自信をもったり、落ち込んだりしてその夜はふけていったものです。十七年間の在籍中のアルバムを見返してみると、色々と出来事があるが印象に残っているもので初めての旅行での宴会の仲居さんもびっくりする様な又、腹をかかえて笑った先輩諸氏のかくし芸。昭和五十七年亡き森山実行委員長の下で与古光君と約四カ月、乏しい知恵を絞り合って行った運動会とすぐ後の研修旅行。昭和五十九年、あんたは司会だけをやれば良いと言われ安請負をしてしまった二十周年式典部会長。昭和六十年、忘年役員会で中洲の街を会長の鞄持ちで飲み明かした夜。昭和六十四年二十五周年を考える特別委員長等々。上げるときりがないほど色々と思い浮かんできます。中でも平成六年の三十周年は、多くの方々のご協力により無事に終えることができました事は心より皆様にお礼申し上げます。会員の諸氏におかれましては、次なる四十周年に向け、更なる躍進をされる事を願っています。三十代、四十代半ばと、人生において最も熟していく時期に青年会で出会った人々、経験した事は、これからの私にとっての大きな財産となりました。本当にありがとう。

得居慎一

何が彼をそこまでさせたのだろう。正月二日、箱根駅伝での事である。４区で大会三連覇を目指す山梨学院大のエース中村選手が足をひきずりながら走っている。時には立ち止まり、顔をひきつらせながら又、走りだす。実は大会前からアキレス腱に異常を起こしていたという。これ以上悪化しないことを願って彼は走った。しかし、タスキを受けて３kmもうとても走れる状態ではなかった。そのタスキには部員百八名全員のサインが必勝の願いをこめて記されていた。このタスキの無言の重みとは何だろうか。彼は監督が肩を抱くまで走り続けた。同じ駅伝の２区では早大の渡辺選手が出場し、こちらは期待通り一位で走った。しかしアトランタオリンピックマラソン代表を目指す彼には二日の選考マラソンが控えていて、その調整の上では、不利だという駅伝に出場し、全力で走った。マラ



平成６年 韓国旅行にて（民族村）

ソン代表の有力候補のこの２人の駅伝出場、そしてその激走の原因は何なのだろう。本当の理由をうかがい知る事はできないが、個人競技者の彼らにとって唯一の団体競技が駅伝なのです。チームメイトの不調が自分の調子もくるわせるかも知れないのに、又、他人の分までカバーして上げなくてはいけないのに、それでもこの仲間意識が彼らの一つの動機であろうと思います。卒業に際して、会員の皆様に贈る言葉は「仲良くしょう」です。人を嫌いになるのは簡単です。相手を悪い人にしてしまえば良いのですから、悪い人を嫌いになるのは当然ですからね。でも、直方鉄工青年会で出会い、一緒に活動し、学び遊んでいる仲間なのです。好きな仲間と一緒に居る事は楽しい事です。しょっちゅう顔を合わせる機会の多い仲間ともっと積極的に仲良くしてもらいたい。最後になりましたが、お世話になりました会員の皆様、卒業会員の方々。関係諸団体の皆様方へ、心こめてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

安　永　充　孝

昭和61年に入会して10年間、直方鉄工青年会に籍を置かせて頂き有り難うございました。心からお礼申し上げます。

私自身この10年間を振り返ってみて思うことは、先ず第一に出席の悪い会員であったこと。（役員の時は懸命に働きました）。第二に会員活動と社業は、なかなか両立しがたい面が。第三に人格形成には大いに役立ったこと。第四に良い友人が出来たこと。以上の事柄が青年会に籍を置いて感じたこと、又得したことであります。

青年会には、業種の違う人、年齢の違う人、様々な会員がいます。さらに青年会に入会しているとは言え、各会員の背後にある会社の状態、職種の違い、業務の違い、そして役職の違い等があります。

会長を初め、各委員長等の役付者は一生懸命、会の運営に邁進しており、又会員も会運営に懸命で素晴らしいことです。

さて、出席の悪い会員から皆様へ一言。

平成７年 通常総会にて
（議長を務める）

直方鉄工青年会の会員は、あくまでも会員です。しかし各会社の一員でも有ります。社業を第一に考え専念し、会社の業績を上げることが第一の目的です。その上で、もし時間が許すならば青年会活動に積極的に参加され、知識を得ることが出来ると思います。素晴らしい友を作ることが出来ると思います。

私が青年会に感謝すること。それは素晴らしい知識と友人を得たことです。

最後に、直方鉄工青年会の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

友　原　清　年

直方鉄工青年会に入会して、早や20余年、とうとう卒業する時が来ました。

今は、淋しさと解放感が入り交じった気持ちです。

入会当時をふりかえるのは、古すぎて大変ですが、その頃の鉄工所は、直方の町に数多く点在しており、鉄を叩く音、削る音があちらこちらから聞こえていたものです。

その頃は、青年会も創立されて三～四年で会員の方々も青年を少し過ぎた方が多かったのですが、若々しく活気に満ちていたのを、思い出します。

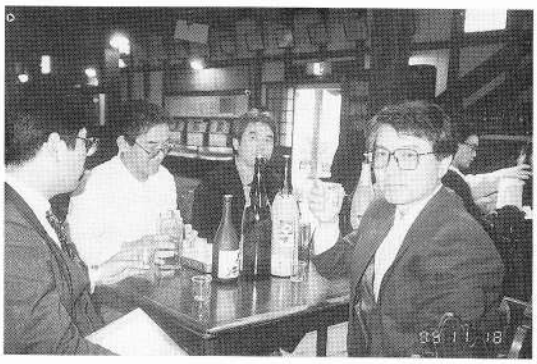
月何回かの活動も親睦（飲み事）中心で飲めない私としては、少し、いやとっても、辛いものがありました。

その後、会員数も増え、委員会が中心となった活動になり、多くの行事が企画され楽しく参加する事が出来ました。

中でも、10周年・20周年・30周年と節目の記念行事に参加出来たことは、とても良い思いでなり嬉しく思っています。

大変大変、長い長い間でしたが、本当に有難うございました。

これからの直方鉄工青年会の益々の発展をお祈りしています。



平成７年 鹿児島研修旅行
（田苑酒造にて）

事業報告

4月22日（土）通常総会（直方いこいの村）

通常総会

5月28日（日）企業対抗ボーリング大会（飯塚麻生塾ボール）
直方精機（株）チーム優勝
6月11日（日）ミッションバレーゴルフクラブでコンペ
浅田鉄工（株）浅田社長優勝
6月21日（水）雑学セミナー（直方鉄工組合2F）
舌間信夫先生による直方の歴史と文化のおもしろ話
7月23日（日）まつりくらじ参加（小竹）
7月30日（日）遠賀川川下り大会参加

川下り大会

8月6日（日）家族ピクニック（海の中道）
9月23日(土)•24日(日) アウドドアセミナー
（赤とんぼ村共和国）台風で中止のため
9月29日（金）セミナー（佐賀屋）
藤井秀重先生による自然と人間と経営について
10月18日（水）情報収集セミナー
（直方コンピューターカレッジ）
10月22日（日）中小企業勤労者
スポーツ交流大会参加
（三菱化学黒崎事業所体育館）
10月29日（日）北九州カントリー倶楽部コンペ
（有）吉岡鉄工所岩野社長優勝
11月18日(土)•19日(日) 研修旅行（鹿児島）

研修旅行（鹿児島・磯庭園）

12月1日（日）国際交流委員会講演会
（直方商工会議所2F）
江橋正彦先生によるアジア経済の情報並び国際ボランティア活動について
12月20日（日）忘年会（佐賀屋）

広報委員会より

新年明けましておめでとうございます。
平成7年度スローガン「青年会を情報交差点とし独創から協創へ飛躍しよう」から始まった吉田会長率いる青年会ですが、早いものでもう幾月かで幕を閉じようとしています。私なりに一年を振り返りますと、毎日が反省の日々となります。しかしその中で学んだ事も少なくありませんでした。「時間の大切さ」「人とふれあう大切さ」今年はこの2点に付いて深く考え「自分なら成せる」と思い込み前進して行きたいと考えています。担当最後となりましたが、広報委員会の皆さんのおかげをもちまして無事瑞雲を発行できました事感謝申し上げます。今年も一年間よろしくお願い致します。

広報委員長 **福 山 貴 信**

※ご冥福をお祈り申し上げます。

青年会会員牛島弘樹君の祖母牛島ヨシエ様（83歳）が、平成7年10月27日永眠されました。
特別会員倉田義良重様のご母堂倉田美代子様（84歳）が、平成7年11月24日永眠されました。
特別会員石橋勲様のご母堂石橋ムツミ様（88歳）が、平成7年12月17日永眠されました。
特別会員半田景久様のご尊父半田久様（84歳）が、平成8年1月3日永眠されました。